フィッシング詐欺撲滅に向け奔走した研究生活

中村 元彦　ソフトバンクテレコム（株）

〔受賞論文〕
- **プロキシを利用した HTTP リクエスト解析によるフィッシングサイト検出システムの提案**
- **中村元彦**（中央大学大学院 理工学研究科），**寺田真敏**，**千葉雄司**（中央大学研究開発機構／（株）日立製作所 システム開発研究所），**土居範久**（中央大学大学院 理工学研究科）
- **情報処理学会論文誌，Vol.48, No.10, pp.3365-3374 (2007)**

このたび，標記の論文で本会論文賞をいただくことになった．もとより賞を狙って研究するわけではなく，新しい研究分野ということも重なり，苦難の日々が続いたが，これで１つ報われた気がする．大変名誉なことであり，今後も精進していきたい．

本論文の構想当時，現実世界・サイバー世界にかかわらず，“架空請求詐欺”が横行し，被害が拡大の傾向にあった．現実世界では“振り込め詐欺”についてマスメディアが大々的に取り上げた．しかし，サイバー世界の“フィッシング詐欺”は世の中に認知すらされていない状況であった．また，当時としては希少であった既存のブラックリスト方式のフィッシング対策では，ブラックリストに登録されてないフィッシングサイトを検出できないという課題があった．そこで，我々はフィッシング詐欺対策に一石を投ずるべく，実態調査という地道なところから研究に着手した．

調査を重ねた結果，フィッシングサイトには，(a) サイトの存続期間が短く，(b) ドメイン名に特徴があり，(c) 個人情報の詐取を目的としている，という正規の Web サイトとは異なる特徴に着目するに至った．そして，**表 -1** に示すようなこれらの特徴を総合評価することでフィッシングサイトを検出できるのではないかと考え，パラメータ調整を試行錯誤しながらプロトタイプ実装に改良を加え，新たなフィッシングサイト検出方式の基本構想を固めた．その後，正規の Web サイトとフィッシングサイトを対象にした評価を繰り返し行い，提案方式の有効性を検証した結果，“プロキシを利用した HTTP リクエスト解析によるフィッシングサイト検出システム”の提案につなげることができた．

分類	調査項目
サイトの存続期間が短いという特徴	1. Netcraft サイトを利用した Web サイトの稼働日数取得
	2. Netcraft サイトを利用した Web サイトのランク取得
	3. WayBack Machine サイトを利用したドメイン登録有無と過去の Web ページとの差異量の取得
ドメイン名の特徴	4. Web サイトへのアクセス回数の確認
	5. TLD（Top Level Domain），SLD（Second Level Domain）に基づくドメイン名形式の確認
	6. DNS サーバを用いた正引き，逆引きアドレスの取得
個人情報の詐取を目的とする特徴	7. 個人情報の入力を促す文字の有無

表 -1　フィッシングサイト判定のための調査項目

幸いにその研究成果は注目を集め，高い評価を得ることができた．本会論文誌に発表したところ，運良く採録されたが，我々の思う以上の評価が得られ，とても嬉しく思う．この分野は新しい研究分野であり先が長いと考えている．これからも，多くの優秀な研究者と競い，本分野を発展させていきたい．また，研究成果が，フィッシング詐欺対策という研究の発展に貢献することができれば，これ以上ない幸せである．

（平成 21 年 4 月 2 日受付）

中村　元彦　motohiko.nakamura@tm.softbank.co.jp
2006 年中央大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了．同年ソフトバンクテレコム（旧日本テレコム）（株）入社．